

環境経営活動レポート

2023年度 第12版

(2023年3月～2024年2月)

2024年3月29日

有限会社 グローバルシステム

環境経営方針

当社は「次世代に住みよい地球環境を引き継ぐために、よりよい地球環境ならびに地域環境に貢献する」ことを基本理念とし、以下の方針を定めて地球環境に調和した事業活動を行います。

1. エコアクション21に準拠した環境経営マネジメントシステムを構築し、実現することにより環境保全活動を継続的に推進します。
2. 環境負荷の低減と汚染の予防に努めるとともに、環境経営マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
 - ①二酸化炭素排出量削減に努めます。
 - ②収集運搬車両の効率的な運転に取り組みます。
 - ③電気、水道、燃料等の使用エネルギーの削減に取り組みます。
 - ④廃棄物の排出抑制に努めます。
 - ⑤廃棄物収集運搬量の向上に努めます。
 - ⑥顧客数の向上に努めます。
3. 事業活動にかかわる関係法令ならびに規則を順守します。
 - ①廃棄物の飛散、漏洩などの防止による地域住民への配慮をします。
 - ②廃棄物の適正処理を推進します。
4. この環境経営方針を環境経営マネジメントシステムに反映し、社員に周知徹底させ環境経営意識の向上を図ります。
5. この環境経営方針は、一般にも公開します。

有限会社 グローバルシステム
代表取締役 山本 哲生

2012年5月15日制定

2018年4月21日改訂

◇取組の対象組織・活動

1) 事業者名および代表者名

事業者名 : 有限会社 グローバルシステム

代表者名 : 代表取締役 山本 哲生

創業 : 2006年8月1日

2) 所在地

本社所在地: 〒754-0894

山口県山口市佐山4836番地1

積替え保管場所: 同上

3) 責任者および担当者連絡先

責任者 : 環境管理責任者(山本)

担当者 : EA21事務局 (日浦)

連絡先 : TEL(083)-988-2323 FAX(083)-989-5638

E-Mail global05@c-able.ne.jp

4) 事業内容

一般廃棄物および産業廃棄物収集運搬業(積替え保管あり)

5) 事業規模 (2022年度)

資本金 : 17.5 百万円

売上高 : 205 百万円

従業員数 : 15 人

敷地面積 : 597 m²

建屋床面積 : 335 m²

保管上限 : 51.7 m³

一般廃棄物取扱量: 5,553 t/年 (2023年度実績)

産業廃棄物取扱量: 1,582 t/年 (2023年度実績)

6) 事業年度

3月 ~ 2月

7) 認証・登録の対象範囲(全組織・全活動)

①対象事業者名 : 有限会社 グローバルシステム

②対象事業所 : 本社

③対象活動 : 一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬

8) 許可の内容

一般廃棄物収集運搬許可証

山口市 :	指令資源第96号
許可期間	2022年4月1日～2024年3月31日
防府市 :	第4-32号
許可期間	2022年4月1日～2024年3月31日
宇部市 :	(家)第229号
許可期間	2023年4月1日～2025年3月31日
山陽小野田市 :	指令第38号
許可期間	2022年6月12日～2024年6月11日

産業廃棄物収集運搬許可証

山口県 :	第03515120241号
許可期間	2020年8月3日～2027年8月2日
積替保管の面積:	80m ²
積替保管の上限:	51.7m ³

廃棄物取扱種類

一般廃棄物 :	可燃物・不燃物・資源物
産業廃棄物 :	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)、陶磁器くず(自動車等粉碎物を除く。以上3種類)、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残渣、動物のふん尿、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、がれき類(これらは、石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等であるものを含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上15種類

9) 設備の内容

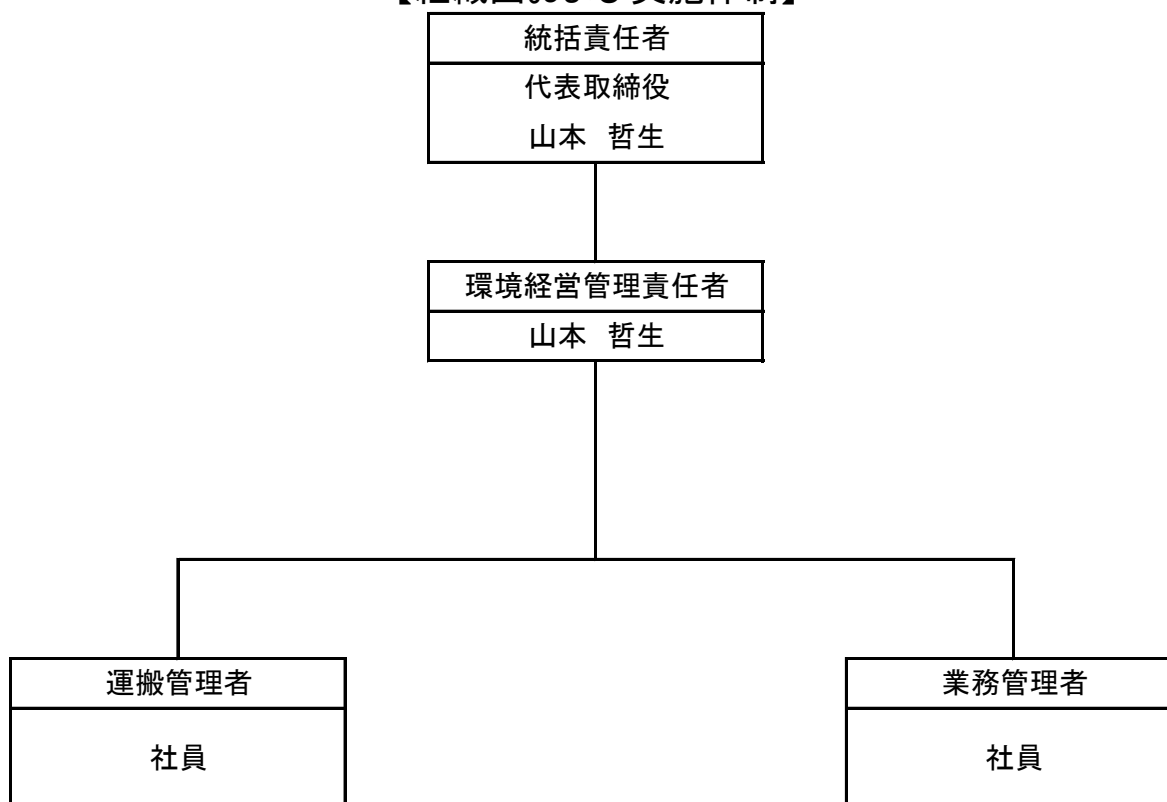
車両 :	ウイング車両	1 台	ロールオン車両	2 台
	塵芥車両	10 台	アームロール車両	7 台
	普通車両	2 台	軽トラック車両	1 台
	軽自動車両	2 台	フォークリフト	1 台
	重機車両	1 台		
			合計	27 台

10) 廃棄物処理料金

都度お見積り(廃棄物の種類、運搬距離、排出量により算出する)

◇組織図とEA21推進体制

【組織図および実施体制】



所属(役職)	役割・責任・権限・使命
統括責任者	・全体の統括管理 ・EA21の構築・運用・維持に必要な資源の準備 ・環境経営方針の制定 ・システム全体の評価と見直し
環境経営管理責任者	・EA21の要求事項に適合したシステムを構築し、維持管理する ・環境経営目標・環境経営活動計画の策定 ・苦情・要望等の処理全般
業務管理	・外部要求事項の受付 ・使用エネルギー量(水・電気・ガス等)の管理 ・廃棄物排出量の管理 ・廃棄物取扱量の管理
運搬管理	・廃棄物収集運搬実務の管理 ・使用車両の管理 ・使用エネルギー量(車両燃料)の管理 ・エコドライブの推進 ・環境経営目標および実施事項に対する問題点の是正処置の実施

◇2023年度環境経営目標

1)環境経営目標

		単位	2019年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量の削減		(kg-CO2)	317934 基準値	314755 -1.0%	311575 -2.0%	308396 -3.0%	305217 -4.0%	302037 -5.0%
購入電力量の削減(原単位) (年間総購入電力量kwh/従業員平均人数)		kwh/人	1037.94 基準値	1027.56 -1.0%	1017.18 -2.0%	1006.80 -3.0%	996.42 -4.0%	986.04 -5.0%
水使用量の削減(原単位) (年間総使用量ℓ/従業員平均人数)		ℓ/人	6918.37 基準値	6849.19 -1.0%	6780.00 -2.0%	6710.82 -3.0%	6641.64 -4.0%	6572.45 -5.0%
廃棄物(可燃物、不燃物)の排出抑制(原単位) (年間総排出量kg/従業員平均人数)		kg/人	5.767 基準値	5.709 -1.0%	5.652 -2.0%	5.594 -3.0%	5.536 -4.0%	5.48 -5.0%
定期顧客累計件数の向上	年間定期顧客件数(件)	件	8200.00 基準値	8216.40 0.2%	8232.80 0.4%	8249.20 0.6%	8265.60 0.8%	8282.00 1.0%
ガソリン購入量の削減(原単位) (ガソリン使用量ℓ/顧客件数)	ガソリン削減量合計(ℓ/件)	ℓ/件	0.193 基準値	0.191 -1.0%	0.189 -2.0%	0.187 -3.0%	0.185 -4.0%	0.18 -5.0%
廃棄物運搬量の向上	一般廃棄物運搬量	t	3259.27 基準値	3291.86 1.0%	3324.45 2.0%	3357.04 3.0%	3389.64 4.0%	3422.23 5.0%
	産業廃棄物運搬量	t	2359.62 基準値	2383.22 1.0%	2406.82 2.0%	2430.41 3.0%	2454.01 4.0%	2479.02 3.0%
	一廃資源物運搬量	t	2514.69 基準値	2539.84 1.0%	2564.99 2.0%	2590.13 3.0%	2615.28 4.0%	2640.43 5.0%
	産廃資源物運搬量	t	265.11 基準値	267.76 1.0%	270.41 2.0%	273.06 3.0%	275.72 4.0%	278.37 5.0%
軽油総購入量の削減(原単位) (軽油使用量ℓ/廃棄物運搬量t)	軽油削減量合計	ℓ/t	13.807 基準値	13.669 -1.0%	13.531 -2.0%	13.393 -3.0%	13.255 -4.0%	13.12 -5.0%
運搬車両軽油使用量(燃費)の維持 (走行距離km/軽油使用量ℓ)	軽油使用量削減	km/ℓ	5.25 基準値	5.25 前年維持	5.25 前年維持	5.25 前年維持	5.25 前年維持	5.25 前年維持
資格取得件数向上 (資格取得件数)	取得数向上	件数			14.00 基準値	14.00 前年維持	14.00 前年維持	14.00 前年維持

※2021年度の電気事業者別CO2排出係数：

「中国電力の2019年度の排出係数：0.585Kg-CO2/KWhを適用」を使用する。

※化学物質は使用していません。

※環境目標ではありませんが、その他の活動として、会社周辺の清掃活動を実施します(1回/月)。

※水使用量1m³=1,000ℓで計算しています。

※グリーン購入は維持管理としています。

※購入電力量の削減(原単位)、水使用量の削減(原単位)、廃棄物の排出抑制(原単位)について、計算方法を
年間使用(排出)量/平均人数に変更した。

◇当年度環境経営目標計画(2023年度)

目標	活動内容	責任者
二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2)2019年度実績比4%低減	電気使用量の削減	日浦
	燃料使用量の原単位削減(軽油)	河村
	燃料使用量の原単位削減(ガソリン)	山本
	燃料使用量の削減(軽油)	河村
	燃料使用量の削減(ガソリン)	山本
電気使用量原単位の削減(kwh/人)2019年度実績比4%低減 (年間電気総使用量kwh/平均人数)	エアコン設定温度を決め、実行する	日浦
	昼休みの消灯	日浦
	残業時の不要な照明の消灯	日浦
	長時間席を離れる場合、パソコンの電源OFF	日浦
水使用量原単位の削減(ℓ/人)2019年度実績比4%低減 (年間水総使用量/平均人数)	節水運動の実施	日浦
廃棄物総排出量の原単位削減(kg/人)2019年度実績比4%低減 (年間廃棄物総排出量/平均人数)	裏紙の使用	日浦
	ミスコピーの防止	日浦
	分別の徹底	日浦
顧客件数の向上(件)2019年度実績比0.8%向上	顧客要望への早期対応	山本
	入札情報の確認	山本
	見積案件の向上	山本
ガソリン使用量の原単位削減(ℓ/件数)2019年度実績比4%低減	ガソリン使用量の効率化	山本
廃棄物運搬量の向上(t)2019年度実績比4%向上	一般廃棄物収集運搬量の向上	山本
	産業廃棄物収集運搬量の向上	山本
	資源物収集運搬量の向上	山本
運搬車両軽油使用量の原単位削減(t/ℓ)2019年度実績比4%低減	省エネドライブの実施	河村
	配車計画の合理化	河村
	作業計画の合理化	河村
軽油使用量(燃費)の前年度維持(原単位)(km/ℓ)	燃費調査、軽油使用量の効率化	河村
定期的な教育の実施(1回/2ヶ月)	教育の実施	山本
会社周辺の清掃活動の実施(1回/月)	会社周辺の清掃活動の推進	山本
社員資格取得数の向上(確認)	計画的な社員の資格取得を実施	山本

◇環境経営目標達成状況

2)2023年度の環境経営目標達成状況(評価期間：2023年3月～2024年2月)

項目	単位	目標値	実績値	結果	評価
①二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	305217	275844	-9.6% ↓	○
②電気使用量の削減(原単位)	kwh/人	996.42	1049.27	5.3% ↑	×
③水使用量の削減(原単位)	ℓ/人	6641.64	12666.7	90.7% ↑	×
④廃棄物排出量の削減(原単位)	kg/人	5.536	5.693	2.8% ↑	×
⑤定期顧客累計件数の向上	件	8265.60	8117	-1.8% ↓	×
⑥ガソリン使用量の削減(原単位)	ℓ/件	0.185	0.162	-12.4% ↓	○
⑦一般廃棄物運搬量の向上	t	3389.64	2646.61	-21.9% ↓	×
⑧産業廃棄物運搬量の向上	t	2454.01	1446.44	-41.1% ↓	×
⑨一廃資源物運搬量の向上	t	2615.28	2906.01	11.1% ↑	○
⑩産廃資源物運搬量の向上	t	275.72	135.99	-50.7% ↓	×
⑪軽油燃料の削減(原単位)	ℓ/t	13.255	32.888	148.1% ↑	×
⑫軽油使用量(燃費)の維持	km/ℓ	5.25	5.302	1.0% ↑	×
⑬資格取得数の向上	件	調査年度	0.00	- -	-

※年間の電気使用量は15,739kwh、年間の水使用量は190,000L、従業員の平均人数は15人

※廃棄物の年間排出量は186.4kg

※年間の軽油使用量は93,895.75L、ガソリン使用量は1,744.11L、運搬車両の走行距離は497,828km

3)取組結果の評価及び次年度の取組内容

①二酸化炭素排出量の削減

廃棄物運搬量の減少に伴う、燃料(特に軽油)使用量が大幅に減少したことが主要因と思われます。景気の回復は徐々に進んでいますが、事業系一般破棄物、産業廃棄物ともに排出量が大幅に減少しています。それに伴い燃料使用量も減少したと思われます。

②電気使用量の削減

新型コロナに加え、インフルエンザ予防の観点より、三蜜回避で、換気しながらの事業活動により、非効率的な電気使用になりましたが、導入したエアコンの省エネ効果が出ていると思われます。

③水使用量の削減

引き続き手洗い・うがいの慣行を実施しました。また車両の4S実施により、使用量増加も考えられます。より節水を 行う取り組みが必要と思われます。引き続き取り組みを継続していきます。

④廃棄物排出量の削減

裏紙の使用など、よく管理ができています。意識の向上もできており、このまま取り組みを継続していきます。分別強化を行うことで、さらに廃棄物の削減に取り組みます。

⑤定期顧客累計数の向上

定期的な新規顧客はわずかですが増加しましたが、逆に撤退や廃業があったため、マイナス数値

でした。次年度は引き続き顧客満足度向上を心がけ、新規顧客獲得に取り組めます。

⑥ガソリン使用量の削減(原単位)

エコドライブの徹底と効率的な配車計画はよくできていると思われますが、新規顧客の増加はあるものの定期顧客の撤退や廃業への対応や定期顧客訪問が減少傾向です。また、会社周辺の清掃のため、草刈りを行いました。

⑦一般廃棄物運搬量の向上

景気は上向きにあるものの、企業から排出される廃棄物は減少傾向にあります。また、撤退や廃業もあったため、マイナス数値でした。その他に分別排出も進んできており、全体的に廃棄物の排出は減少傾向にあります。

⑧産業廃棄物運搬量の向上

自動車関係の不正問題もあり自動車業界を中心に稼働率の減少や生産量の低迷も要因と考えます。一部の企業活動の停滞したことが大きく影響しました。

⑨一般廃棄物(資源物)運搬量の向上

分別排出が進み、紙やペットボトルなどのリサイクル率が伸びたのではないかと推測します。より選別廃棄することで、引き続きリサイクル率向上に努めます。

⑩産業廃棄物(資源物)運搬量の向上

自動車の不正問題もあり自動車業界を中心に稼働率の減少や生産量の低迷も要因と考えます。一部の企業活動の停滞したことが大きく影響しました。

⑪軽油燃料の削減(原単位)

一部の企業活動の停滞が大きく影響しました。

効率的な配車やエコドライブの徹底で使用燃料(軽油)の削減に取り組むことと、使用燃料の削減を図ります。また、引き続き、老朽化車両の代替を定期的に行います。

⑫軽油使用量(燃費)の維持

目標はわずかですが達成できませんでした。引き続き効率的な配車やエコドライブの徹底で使用燃料(軽油)の削減に取り組めます。

⑬資格取得数向上

今年度は、できていませんが、引き続き、社員の教育・知識の向上で社印の仕事意欲の向上や新規事業への対応のため行っていききたいと思います。

◇次年度に向けた取り組み

環境経営目標および環境経営目標計画は引き続き、現状の取組を継続する。

◇環境関係法規制等の遵守状況

環境関連法規制等（廃棄物処理法、道路交通法等）の定期評価の結果、違反はありません。

また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟はありません。

◇代表者による全体評価と見直し

- ・二酸化炭素排出量の目標値は達成できましたが、仕事量（運搬量）が大幅に減少し、軽油使用量が大幅に減少したことでの達成でした。
- ・景気は上向きにあるものの、コロナ前には程遠い気がします。
- ・定期顧客の増加は微増ですが増加していますが、逆に撤退や廃業する顧客もあり、全体的には顧客数も増えなかった。
- ・引き続き、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染も懸念されるため、安全衛生体制と安全作業が必要と考えます。より一層の安全衛生管理を強化して取り組みます。
- ・車両に関しては、継続的に燃費確認の実施と原単位での削減で、より一層のエコドライブの徹底、効率的な配車を行ってまいります。
- ・運搬用車両は随時更新し、従業員がより安全で効率的に作業できるように、バックモニター、ドライブレコーダー等の安全装置搭載車へ随時、車両を更新していきます。今後はより効果的な改善が期待できるデジタコやAIソフト導入も検討していきます。
- ・電気使用量は、各種流行病の対応で常時換気状態にもかかわらず、省エネタイプのエアコン機器の効果が出ていると思われます。
- ・水使用量は、継続的な手洗い・うがいの慣行と車両の4S向上で増加傾向であるため、引き続き継続的な改善が必要になると考えられます。
- ・従業員の資格取得の向上を設定しましたが、今年度は、人不足の影響で人員配置がうまく行き届かず、思うような取得はできませんでした。資格取得をすることで、従業員の労働意欲の向上とともにバランスの取れた従業員を育成し、より一層の顧客満足度の向上を図ってまいります。
- ・物価高騰の影響が強く出はじめており、より一層のCO2削減の効率化を図るとともに継続的な顧客満足向上を図ることで売上向上することが重要と考えます。
- ・次年度も環境経営マネジメントシステム活動を有効に活用し、目標達成と売上向上に取り組めます。